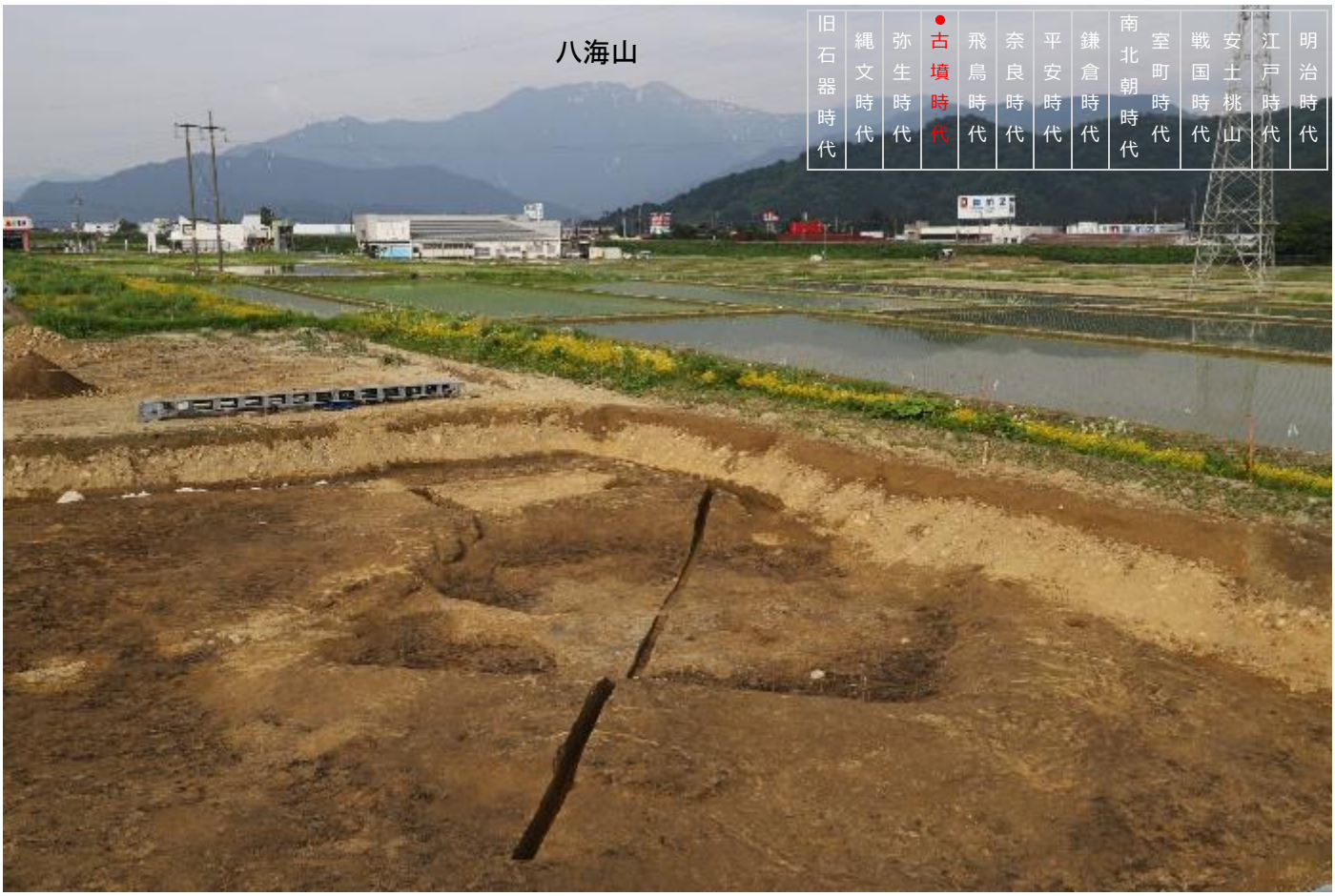
資料ＮＯ.

むいかまちふじつか

# 六日町藤塚遺跡（Ⅱ）　現地説明資料




**周堤が残る竪穴建物**

日時：平成 30 年 7 月 29 日（日）場所：南魚沼市余川ほか　六日町藤塚遺跡（Ⅱ）・坂之上遺跡発掘調査事務所

主催：国土交通省北陸地方整備局長岡国道事務所

　　新潟県教育庁文化行政課　公益財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団

## 1　調査の概要

国道 17 号六日町バイパスの建設に伴い、長表東遺跡・北沖東遺跡・余川中道遺跡・六日町藤塚遺跡・坂之上遺跡の発掘調査を進めてきました。

六日町藤塚遺跡は、標高 178～179ｍの庄之又川の扇状地に位置し、平成 29 年度から調査を開始しました。

今年度の調査では古墳時代後期（6 世紀前半）の周堤が残る竪穴建物を発見し、竪穴建物の作り方を知る手がかりが得られました。

六日町藤塚遺跡と周辺の遺跡（坂戸山から撮影）

遺跡の時期は古墳時代後期で、竪穴建物の他には、土坑や溝、祭祀に関係すると考えられる土師器が集中する箇所や赤く焼けた土が見つかっています。

当遺跡の周辺には飯綱山古墳群（県史跡）と蟻子山古墳群（県史跡）、余川中道遺跡（出土品が県指定文化財考古資料）や金屋遺跡、坂之上遺跡など古墳時代の遺跡が密集しています。今回の発掘調査の成果はそれらの遺跡との関係を考え、当地域の往時の社会を復元するために重要です。

## 2　周堤が残る竪穴建物

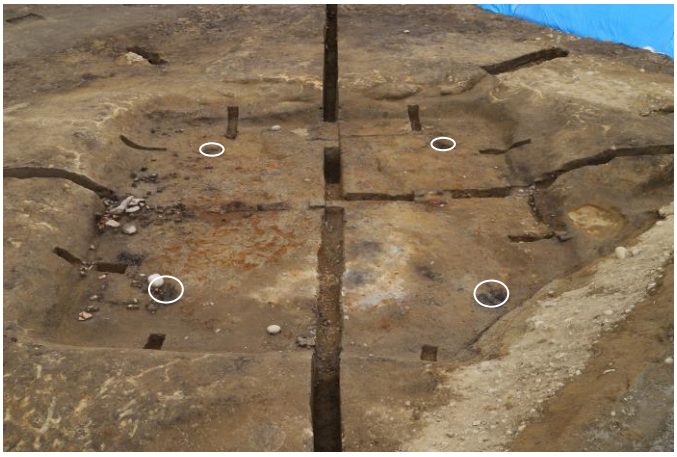
竪穴建物とは地表面を掘り窪めて床面を設ける建物で、周堤とは掘った土を周囲に積み上げて堤状にしたものです。新潟県内で、周堤を伴う建物は縄文時代９例、弥生時代１例、古墳時代３例がわかっています。周堤が確認された建物のうち、弥生時代以降のものは平地式建物の周囲を巡る溝を掘削した土を周堤に使用するものが目立ちますが、本事例は主に竪穴を掘削した土を周堤にしているという特徴があります。

竪穴建物は東西・南北方位で構築され、床面の規模は南北 6.7m、東西 6.2mのほぼ正方形です。周堤は断面観察の結果から幅約３m、高さ 16～30cm あることを確認しました。床面には柱穴があり、床面中央のやや西寄りには炉の跡と考えられる赤く焼けた土が集中しています。建物内に堆積した土からは土師器、直径３～４mm の臼玉や骨片（小さな獣の骨？）などが出土しています。出土した土師器は古墳時代後期の６世紀前半と考えられます。

臼玉

当遺跡の古墳時代の層を、土石流の礫や砂が覆っていたため、周堤と竪穴建物を良好な状態で発見できました。

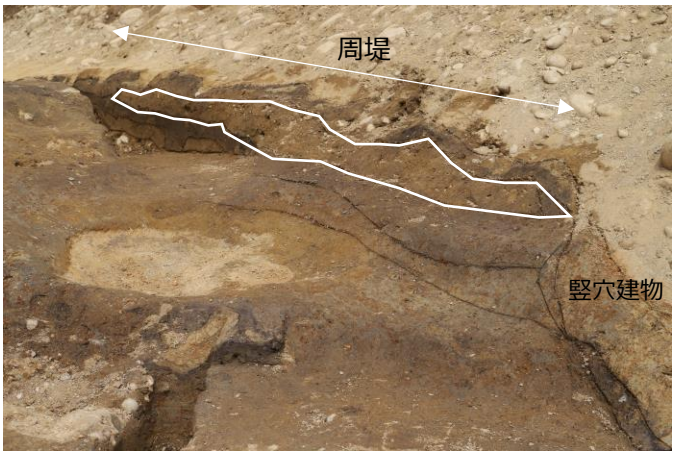
周堤が残る竪穴建物



柱穴の検出状況

炉跡と遺物の出土状況

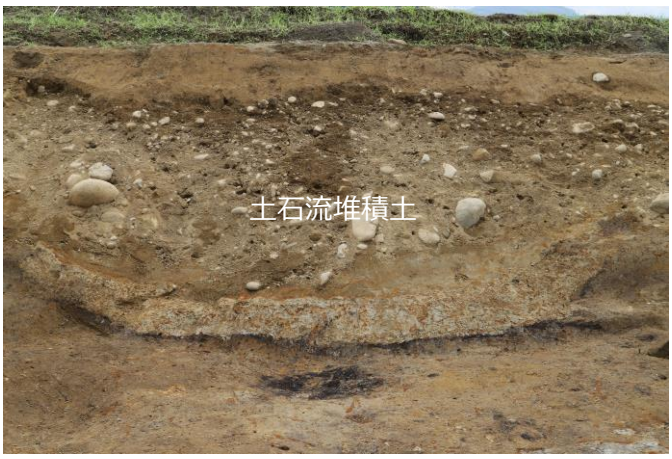
遺物の出土状況




調査区東壁面の竪穴建物と周堤

柱穴と土師器

竪穴建物に堆積した層の乱れ




竪穴建物を覆う土石流堆積土

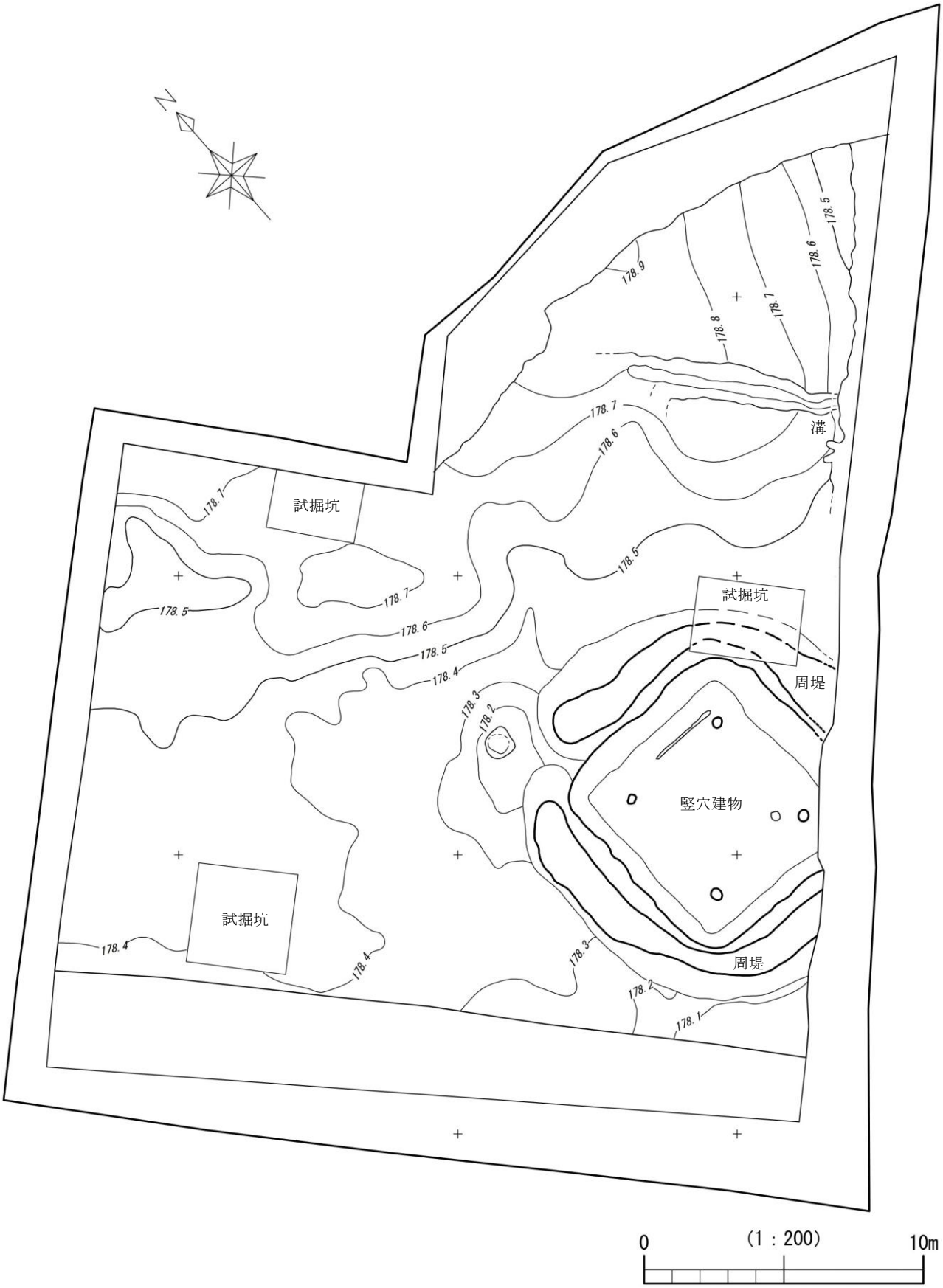
## 3　竪穴建物の構築と埋没過程

調査区は北から南に向かって標高が低くなる地形で、竪穴建物は調査区南側の低い場所に位置します。この地形の傾斜の関係で、西側の周堤に比べて、北側はやや平坦で、南側は自然の傾斜のようになだらかで目立ちませんが、断面観察の結果、東西南北壁面の外側に周堤があることを確認しています。その周堤の土は、小さな礫が多い箇所や砂っぽい箇所などの部分的に異なる特徴が見られ、掘削した土の特徴を反映しています。

床面の柱穴には建物内に堆積した黒色土が落ち込み、柱穴の真上からも土師器の破片が出土していることから、建物自体は解体されたと考えられ、建物の細かな構造はわかっていません。床面に堆積した黒色土は、さらに上の土とともに堆積が乱れた部分がありました。他県の事例を参照すると建物が解体された後に、人や動物が入り込んだ可能性が考えられます。その後、竪穴が埋まりきらず、周堤が残っているうちに発生したと考えられる土石流堆積土に遺跡が覆われて埋没しました。

## 4　おわりに

今後は、周堤の内部に残された建物の構造を解明するための手がかりを探す調査を実施する予定です。建物の構造を解明することによって、建物の性格や他地域との繋がりなどがわかることが期待されます。


N
178.9
178.8
178.7
178.6
178.5
178.7
178.6
溝
178.7
試掘坑
178.5
178.7
178.6
178.5
178.4
178.5
試掘坑
周堤
178.3
178.2
竪穴建物
試掘坑
178.4
178.4
178.3
周堤
178.2
178.1
0
(1：200)
10m

B 区遺構全体図